

④ ジャガイモを育てよう

排水の良い場所を選ぶ

ジャガイモはナス科の作物です。南米アンデスが原産地で、冷涼な気候を好み生育適温は15～20度です。手軽に栽培でき、安定して生育することから収穫の喜びを味わえる野菜です。

1. 品種

品種は多収でイモのそろいが良いニシユタカ、多収で食味のよいデジマ、イモが長形で食感がしっとりしたメークイン、多収で疫病に強いアンデス赤などが一般的に栽培されています。赤肉のノーザンルビーや食味のよいインカのひとみなどもあります。

2. イモの準備

種イモ1^{キロ}で約5平方^{メートル}分です。種苗店、ホームセンターなどで購入し、準備します。日なたにおいて芽の発生を促します。植える2、3日前に大きいものは1片30^{グラム}程度に切断し、断面が乾くよう日陰に干します。

3. 畑切準備

数年ナス科の野菜を植えていない、排水の良い場所を選びます。定植の1週間前に1平方^{メートル}当たり堆肥2^{キロ}、化成肥料（成分8・8・8）を100^{グラム}、ヨウリン30^{グラム}を散布し、耕うんします。または植え溝に同量の堆肥、化成肥料、ヨウリンを散布してもよいです。

4. 定植

3月上旬から下旬までに定植します。畝幅80^{センチ}、深さ10^{センチ}の溝を掘り、株間は30^{センチ}でイモの切り口を下にして置き、土をかぶせます。

5. 芽かき

芽が出て10^{センチ}程度になったら1株に芽が3本程度になるように芽を取り除きます。

6. 追肥、土寄せ、除草

芽かきの後とつぼみが出たころ追肥用化成肥料を1回につき1平方^{メートル}当たり20^{グラム}を株元に散布し、通路の土を鍬で耕し株元に寄せることで雑草を防ぎます。

7. 病害虫

雨が連続と疫病が発生するので、肥料のやり過ぎに気を付けます。コガネムシの幼虫がイモを食害するほか、ニジュウヤホシテントウが葉を食害するので防除しましょう。

8. 収穫

植え付け後100日程度で収穫できます。葉色が黄色に変わったら収穫適期です。晴天にスコップで周辺を起こして、手で探って掘り上げましょう。



(鹿児島市都市農業センター)